



ちがさき丸ごとふるさと発見博物館
 企画展「丸ごと100-茅ヶ崎を知る100の機会-展」
 運営ボランティア同からのご挨拶

平成26年11月21日から平成27年2月28日まで、100日間にわたって開催いたしました、ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の企画展「丸ごと100」については、市民ボランティアである「丸ごと博物館アクションプロジェクト運営部会」のメンバーが中心となって進めてまいりました。

「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館」事業は、都市資源を活用して地元の人々の「ふるさと」意識を醸成するエコミュージアムという概念を、都会から離れた地方の、昔から変わらない風景と生活様式を色濃く残す田園地域のようなまちではなく、東京をはじめとした首都圏のベッタウ的な性格を持つこの茅ヶ崎という都市に導入している、日本でも大変珍しい先駆的な試みだと考えます。

われわれは、「都市型エコミュージアム」と名づけています。

茅ヶ崎は、古くから在住されている方々をはじめ、別荘文化、戦後復興期から高度成長期に地方から来られた方々、近年「湘南」に憧れて移られた方々など、住まう人々の背景が多種多様なまちです。

そして、それぞれの立場から、幅広くさまざまな市民活動が盛んに展開されている地域だと考えます。つまり、それぞれの方々がそれぞれの想いで「茅ヶ崎大好き！」を表現しているまちだと思います。また、そういった活動に触れながら、この土地で生まれ育ち、この茅ヶ崎を「ふるさと」とする子どもたちがこれからも増えていきます。

われわれの活動は、そこに新たに活動の軸を建てるといよりも、そのようなみなさんの活動をゆるやかにつなぎ、お互いが知り合うことで新しい何かが生まれる下支えをすることだと思っています。

日本は、戦後の急激な経済成長を経て、いま成熟期に入り、少子高齢化、地域コミュニティの希薄化、経済的格差の拡大、シニアライフの過ごし方・・・など、さまざまな課題に直面しています。まさに「課題先進国」といえるでしょう。

ただ、今を生きるわれわれにとって、漫然と問題を並べたてて悩んでいるだけでは、物事が閉塞していくばかりだと考えます。丸ごと博物館の活動は、そういったさまざまな課題解決の糸口になる潜在性と可能性を秘めている活動だと思います。こうした丸ごと博物館の活動を通して、みんなで「課題解決先進都市CHIGASAKI」を実現できればなあ、なんて思ったりもしています。

また、この試みが広く同様の性格を持つベッタウの課題解決につながり、ひいては今後世界で発生する同様の課題解決のツールとして、フロントランナーのモデルケースを提示できればと考えます。

2020年東京オリンピックを目前に、日本が再びさまざまな目を世界から向けられる際に、何らかの成果を茅ヶ崎から発信できればすばらしいな…なんて大きな夢も描いたりしています。

ただ、なによりもまず気負うことなく地道にのんびり無理せず、それぞれの方々ができる範囲で行うことをゆるやかにつないで輪を広げることができればと思います。

何か無理して目立ったことをするのではなく、住まう人々の身の丈にあった活動をつむぐことが、「都市型エコミュージアム」の活動につながり、今回の100日間にわたって屋根の無い博物館の企画展として展開した「丸ごと100」という企画展が、1年中、まさに経常化することで「丸ごと365」という博物館の常設展になればと思います。

「丸ごと100」にご参加いただいた市民のみなさんそれぞれが、このちがさき丸ごと博物館における重要な「学芸員」さんです。どうぞ、これからも「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館」へのご協力、ご支援、そしてご参加をよろしくお願い申し上げます。

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館って何？

茅ヶ崎市の全域を屋根も壁もない博物館と見立てて、文化、歴史、自然、産業、商業、公共施設、人材など、「このまち」らしさをもついろいろな事柄を幅広く選び出し、これらを都市資源と呼ぶことにしました。これらの都市資源を調査・研究し、それぞれがもっている意味や魅力を広く市民に周知する一方、それぞれに関連付けて散策や各種イベントなどで活用を図ることにより、茅ヶ崎を改めて知り、茅ヶ崎を愛する心を育み、ひいてはまち全体の活性化を図ろうとするものです。そして、都市資源は地域のかげがえのない宝物として、地域により保護され育てられていくこととなります。住民が、自分たちの地域の未来のために、自分たちの考えと力で運営していく姿勢を特に重要視しています。

発行・編集 ちがさき丸ごとふるさと発見博物館アクションプロジェクト 広報部会 (印刷協力 湘南ちがさき屋)
 〒253-8686 茅ヶ崎市茅ヶ崎 1-1-1 茅ヶ崎市教育委員会教育推進部 社会教育課文化財保護担当
 Tel 0467-82-1111 E-mail: shakaikyoku@city.chigasaki.kanagawa.jp

屋根も壁もない・・・市内が全部博物館・・・



(愛称は「ちがさき丸ごと博物館」)

第23号

2015. 4. 1



企画展「丸ごと100-茅ヶ崎を知る100の機会-展」

開催報告特集号



goto 100 住まう茅ヶ崎を学び合う 100日間を終えて

平成26年11月21日(金)から平成27年2月28日(土)までの全100日間、ちがさき丸ごとふるさと発見博物館が「茅ヶ崎を知る100の機会」をご提案するキャンペーン事業、企画展「丸ごと100-茅ヶ崎を知る100の機会-展」を開催しました。

期間中の毎週金曜日の夜に「石仏」「自転車」「映画史」など、毎回「茅ヶ崎の〇〇」と題して開講した『「金曜日の夜」のちがさき丸ごと博物館講座』をはじめとする35の講座・講演会、地域やテーマに合わせて市内を巡る18の「まち歩き」企画や自然観察会などを通して、普段になげなく暮らす茅ヶ崎の都市資源について、みんなで学び合いました。

「100日間で住まうまちを知る100の機会」という企画は、市内だけでなく市外・県外、さらには海外からも注目されました。今号は、そんな企画展「丸ごと100」の開催報告をお届けします！

市民ボランティアが主体となって創った 100 日間

今回の企画展「丸ごと100」の全体を通した大きな特長は、茅ヶ崎の都市資源を生かした活動をしている人たちや団体が、ゆるやかにつながる「場」を目指したことでした。

茅ヶ崎の都市資源はたくさんありますし、それらを調査研究し、その魅力を発信している方々は茅ヶ崎にはもともとたくさんいらっしゃいます。

100という数は非常に大きな数ですが、そのような「丸ごと博物館的な」活動や取り組みをつなげて一体的に発信できれば、茅ヶ崎を知る100の機会が実現すると考えました。

昔から茅ヶ崎という土地は市民活動が盛んです。

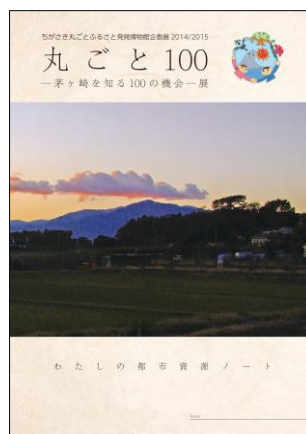
また、山、海、街・・・、昔からお住まいの方、新しく引っ越してこられる方・・・、と多様な価値観が存在する都市です。

そうした多様な価値観にもとづく活発な市民活動が、「ちがさき丸ごと博物館」という場で、ゆるやかにつながっていけたら素晴らしいと思いましたが、「茅ヶ崎について知りたい」という思いを持っている方々にとっては、茅ヶ崎についての、いろいろなジャンル・角度からの情報を受け取れる玄関口があることは魅力的なことだと考えました。

ということで、「茅ヶ崎を知るための玄関口」「丸ごと博物館的な活動、活動をする方々がゆるやかにつながる場」。企画展「丸ごと100」の運営にあたってはそうしたことをテーマに意識してきました。

今回の企画展をはじめ、ちがさき丸ごと博物館は、市民ボランティアと行政の協働事業推進体制のもと運営をしています。

特に、企画展「丸ごと100」の企画においては、4月から隔週水曜日の夜18時半から21時頃まで、定例的に会議を行い、企画展ガイドブックである「わたしの都市資源ノート」の編集や、そこに掲載する各企画の運営やコーディネートについて話し合い、運営事務局としての役割を担ってきました。



▲企画展ガイドブック
「わたしの都市資源ノート」



▲市民ボランティアが「金曜日の夜」の講座をはじめとする企画をコーディネート

話し合うのは、30代から70代までの世代を超えたバラエティーに富んだメンバー。日中の仕事を終えてから集まってくるメンバーもいます。

運営事務局というのかっこいいですが、言い換えれば「あらゆる企画の下支え」です。

「ちがさき丸ごと博物館的活動の下支えをする市民ボランティア」の役割を事業の形にして表現できたことは、企画展「丸ごと100」の大きな成果と言ってよいと自負しています。

市民が講師！「市民が知りたい茅ヶ崎」がテーマの講座群

この市民ボランティアによる目玉企画として、金曜日の夜の講座の運営が挙げられます。

メンバーがそれぞれ「ぜひこの人に話してもらいたい」という方を推薦しあって、無償で講師をお願いしました。若い世代の方々、ちがさき丸ごと博物館の活動に初めて関わる方々にもお願いしました。

参加者アンケートでの評価は上々で、「普段聞けないような話を聞くことができた」という声などがありました。また、その講師の方のご友人が、他の講座にも関心を持たれて、継続的に参加されるケースもあり、初めての方にも満足度は高かったように思います。講座は夜だけでなく平日の日中にも行いました。こちらは市役所の職員による講座が中心で「総合計画」「都市政策」といった内容も講座化しました。

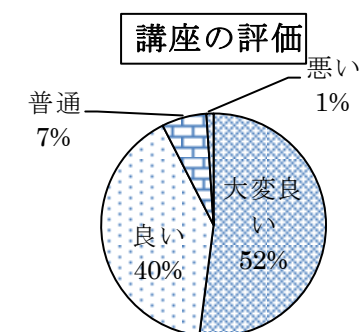
ちがさき丸ごと博物館オリジナル企画の28講座に参加してくださったのは総計578名。アンケートの評価としては、概ね9割の方が良い評価をしてくださいました。ただ、「講座タイトルから想像していたものが実際の内容と違った」「内容が難しかった」など、マッチングという面での課題は残りました。

アンケートの自由記述欄では、開講の時間帯の希望についての記述が目立ちました。みなさん、それぞれの事情で参加できる時間帯が異なりますので、すべてのご要望を満たそうとすると、全ての時間帯に開講することになるのですが、それほどに「住んでいる茅ヶ崎のことを知りたい！」という市民ニーズは高く、多いということだと思います。

ちがさき丸ごと博物館講座アンケートより

「金曜日の夜」のちがさき丸ごと博物館講座を中心に、28講座でアンケートを実施しました。60代以上の市民を中心にあらためて「住まう茅ヶ崎を知りたい」というニーズが感じられます。

男女比 : 男性69% 女性31%
お住まい : 市内93% 県内6% 県外1%
年代 : 20代3% 30代6% 40代6% 50代16%
60代41% 70代27% 80代以上2%



丸ごと博物館企画の定番！「まち歩き」は定員超えの大人気に

ちがさき丸ごと博物館の代名詞的事業、市民ボランティアによる市内まち歩き企画は定員超え続出の人気。

「茅ヶ崎の大山道を歩く」「茅ヶ崎南西部 柳島の魅力を訪ねる」「南湖の文化人めぐり」「国木田独歩追憶の碑へ」「産業ガイド 茅ヶ崎の工場見学」という5本のオリジナル企画を実施し、多くの参加者のみなさんに、知っているようで知らなかった茅ヶ崎の魅力を再発見していただきました。

また、企画展期間中の「まち歩き」を通した特長もまた、企画展全体のコンセプト同様、多様な主体がゆるやかにつながる機会となったことだと感じています。

「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会」による研修をもとに茅ヶ崎の大山道をガイドをしてくださった文教大学の学生さんたち、史跡や別荘地めぐりの企画をしてくださった「茅ヶ崎郷土会」「茅ヶ崎文化人クラブ」のみなさん方など、講座同様こちらも世代を超えた交流が生まれました。

最後に、企画展「丸ごと100-茅ヶ崎を知る100の機会一展」のまち歩き企画全体をふりかえってのまとめとして以下の5つのポイントを挙げます。

- 多くの団体と連携してまち歩きを開催できた。
- 各団体の持ち味を生かした多くのメニューを提供できた。
- 多くの新しい参加者が来られ、まち歩きを楽しんでいただけた。
- 各団体の会員のみならずも相互に学び合うことができた。
- 産業ガイド 茅ヶ崎の工場見学という新しい試みを行った。

来年度もまた、みなさんに市内を楽しくご案内するまち歩き企画を考えております。



▲まち歩き「茅ヶ崎南西部 柳島の魅力を訪ねる」より（1月18日）

海外からも評価された茅ヶ崎の都市型エコミュージアム活動

100日間の期間中にはいろいろなことがありましたが、イギリス・ニューカッスル大学の博物館学研究者ジェラルド・コルサーン氏による茅ヶ崎のエコミュージアム視察には特に驚きました。

ジェラルド氏は、東京で開催されたアジア・ヨーロッパ・日本の博物館研究者や政策立案者らによるフォーラム「Museum2015」に参加するため来日されましたが、「ぜひ茅ヶ崎を見たい！」とお越しになられ、視察に際し、ちがさき丸ごと博物館名誉館長である服部市長を表敬訪問されました。

企画展「丸ごと100」に代表される、まちの歴史、文化、自然等、有形無形の都市資源を市民自らが調査研究し、その魅力を発信する多彩な取り組みについて、海外の都市部にも発信できるモデルとなるものだと評価をいただきました。

地道に一步一步積み重ねてきた取り組みが、世界に評価されているとは大変光栄なことですね！



▲ニューカッスル大学のジェラルド・コルサーン氏が茅ヶ崎を視察に。市長に表敬訪問（1月16日）